

■坪井正五郎 日本の人類学・考古学の基礎をつくり、普及・啓蒙。コロボックル論争旗手でもあった。

つばいしょうごろう

8月18日政変 1863＝ 江戸両国矢ノ倉で、幕府奥医師坪井信良の子に生まれる

明治維新・・・1868＝ 5歳：維新により、徳川家に従い、一家で駿府に移住。

学問のすすめ1872＝ 9歳：

明治6年政変 1873＝10歳：両親とともに、東京に戻る。

佐賀の乱・・・1874＝11歳：湯島小学校に入学、
早くから、珍しい石を蒐集することに熱中、
共立学校・東京英和学校を経て、

西南戦争・・・1877＝14歳：東京大学予備門に入学。奇妙な題名の回覧紙を出し、

大久保暗殺・1878＝15歳：手書きの{毎週雑誌}を刊行、以後数年続ける。

沖縄県編入・1879＝16歳：同窓生らと意見交換や演説練習の場{夜話会}設置、のち人類学会に発展する。

明治14年政変1881＝18歳：卒業し、東京大学理学部生物学科に入学。福家梅太郎とともに目黒村で石器時代遺跡を発見し、

岩倉具視没・1883＝20歳：{東洋学芸雑誌}に、福家と共著で「一土器塚考」発表。

秩父事件・・・1884＝21歳：*有坂鋸蔵らとともに東京市本郷弥生町で「弥生土器」を発見。同期白井光太郎らと人類学会を設立。

帝大総長渡辺洪基の示唆もあって、

帝国大学始・・・1886＝23歳：栃木県足利で日本初となる古墳の学術調査。人類学研究の目的で大学院に進む。学会誌発刊。

国民之友始・・・1887＝24歳：*{東京人類学会報告}に「コロボックル北海道に住みしなるべし」を発表。渡瀬荘三郎の石器時代人=コロボックル説を支持し、アイヌ説の白井とコロボックル・アイヌ論争。{理学協会雑誌}に「足利古墳発掘報告」、古墳造営当時の社会・階級関係に言及。埼玉県吉見百穴を調査、横穴住説をとり、白井の墳墓説と論争。

初の対等条約1888＝25歳：小金井良精とともに北海道旅行、坪井がコロボックル説への自信を深めたのに対し、小金井はアイヌ説の心証をえる。理科大学助手となる。福岡県日ノ岡古墳を発掘し、壁画を発見。

帝国憲法発布1889＝26歳：人類学研究のため、イギリスに留学

帝国議会始・・・1890＝27歳：

大本教・・・1892＝29歳：帰国し、理科大学教授となる。箕作一族の娘と結婚。東京市西ヶ原貝塚を発掘、以後の貝塚調査に影響。

日清戦争始・・・1894＝31歳：

日清戦争終・・・1895＝32歳：「コロボックル風俗考」を{風俗画報}に9回にわたって発表。

白馬会・・・1896＝33歳：人類学会会長となる

八幡製鉄始・・・1897＝34歳：東京市芝罘山古墳群を調査

Bushidou・・・1899＝36歳：理学博士の学位を受く

日比谷公園・1903＝40歳：小金井が「日本石器時代の纏民」と題する講演会でアイヌ説を主張、浜田耕作がアイヌ紋様との比較からアイヌ説を主張したのに対し、内心はそうだと思いながらも、時代に妥協、自らの立場装い続けて反論。

日露戦争終・・・1905＝42歳：「人類学講義」を刊行。

満鉄発足・・・1906＝43歳：帝国学士院会員となる。

韓国反日暴動1907＝44歳：樺太に人類学研究のため出張。

アヲヲイ創刊・・・1908＝45歳：

伊藤博文暗殺1909＝46歳：長野県諏訪湖底ソネ遺跡を調査。

韓国併合・・・1910＝47歳：*東京帝国大学文学部史学科に創設された考古学の講義を担当。

明治天皇没・・・1912＝49歳：柴田常恵らと大阪府津堂城山古墳を調査。

大正政変・・・1913＝50歳：*ロシアのペテルブルグで客死した。